



2/1 働く人の声を聞く会(6年総合的な学習)

■6年生の総合的な学習の時間「ドリームロード」では、キャリア教育の一環として、働くことについて考えたり、自分に合った職業を調べたりしています。この働くということを通して、今の自分を見つめ直し、未来の自分のことを考えたり、将来の夢や目標について考えたりしています。将来の夢や目標、働くことも含めて、幸せな未来についても考えるきっかけになってほしいと思っています。職業調べについては、本やタブレットを使って、仕事の内容や仕事の特性など、知識として学ぶことができますが、今回、実際に働いている大人から直接お話を聞く会を2/1(水)に設けました。当日は、3名の保護者の方から、仕事の内容に触れながら、仕事をする上で日頃から気をつけていること、やり甲斐や魅力について、その仕事の大変さとは、将来、仕事に就くために今から大切にしてほしいことなど、実体験をもとに、いち保護者としてだけでなく、身近な社会人の先輩として熱く語っていただきました。



<働く人の声を聞く会>

<将来どんな大人になりたいですか？> (※一部)

- ・人の気持ちを考えられる大人
- ・あいさつがしっかりできる大人
- ・人に感謝されるような大人
- ・人のために働ける大人
- ・当たり前のことをしっかりできる立派な大人
- ・人と人との関係を大切にできる大人
- ・コミュニケーションがしっかりとれる大人
- ・まわりの役に立てる大人
- ・みんなの幸せを守る大人
- ・何でも本気になれる大人
- ・どんなことにも挑戦する大人
- ・家族を大切にできる大人
- ・正しいことを堂々とやれる大人

↓↓↓↓↓
幸せな大人

<『働く』とはどんなことだと思いますか？>

- ・お金を稼ぐこと
- ・社会の役に立つこと
- ・人びとの生活を豊かにすること
- ・人の笑顔を作ること
- ・人々が平和に生活を送れるようにすること
- ・お金を稼いで自分が思う幸せの理想の実現
- ・生きていくには欠かせないこと
- ・社会を支えること
- ・世の中のためになること
- ・人間関係などをもっと深めること
- ・世の中を動かし、経済活動を活発にすること
- ・やりたい仕事をして成長して、目標に向かってがんばること

↓↓↓↓↓

自他の幸せのため

■「ドリームロード」の授業で、将来や働くことについて考えたことが6年生の学年掲示板に一覧として張り出されていました。その内容の一部を上記のように抜粋してあります。12歳という6年生のこの時期でも、将来どんな大人になりたいのか！働くことってどういう意味なのか！一人一人が自分と向き合いながら考えて出した気持ちばかりだと感じました。どちらからも、共通して感じたことは「幸せ」というキーワードではないでしょうか。



＜2/1 話を聞いた後の子どもたちの振り返り・感想の一部を紹介！＞

・働く人の声を聞いて、将来の夢を考える参考になりました。真剣に将来の夢を考えたいです。「家事と仕事のバランス・今のうちにやっておくべきこと」など、私たちの質問にしっかりと答えていただき、とても参考になりました。これから、自分のことを理解した上で、自分に合った職業、自分の好きなこと・得意なこと、長所を生かせる職業に就きたいと思いました。

・「働く」ということについて深まった1時間でした。今までは、自分や家族のためやお金のためなどぐらいしか考えていませんでしたが、働くとはどういうことなのか知ることができました。自分の就きたい職業でなくても、自分の特性を生かして仕事ができることはすごいと思いました。今のうちから自分の好きなことを見つたり、がんばれることを探したりしたいと思いました。少しずつ夢に向かって進んでいきたいです。

・お話を聞いて、やっぱりコミュニケーション能力が大切なのだと思います。将来、自分がやりたい職業が変わっても、おかしいことではないことも分かりました。どんな職業でも、たくさんの人の役に立っていると思いました。働くことは、どれも大変そうに感じましたが、楽しめそうだなとも思いました。

2/7 昔から続く亀崎の朝市「二七市」について

■2月7日（火）は、亀崎の朝市「二七市」が開かれた日です。

この「二七市」のことを知ったのは、2学期に入ってからでした。子どもたちの朝の登校の様子をと思い、亀崎公民館方面へ校外巡視に足を運んだときに目にとまったことから発見しました。それ以来、「二」と「七」がつく日にちは朝市のことを意識



するようになりました。「二」と「七」の両方がつく、2月7日は必ず朝市に出かけようということで、校外巡視がてら朝市へ向かいました。以前に市場の店主と話をしたとき、「二七市」のことを話してもらったのですが、そもそもどうして「二七市」なのか？という疑問を抱いていたので、野菜を扱っているお母さんに尋ねたところ、「一六市（いちろく）」とか「三八市（さんぱち）」とかもあって、亀崎が「二七（にしち）」に開いているということを教えてもらいました。昔は、何十軒も屋台の市場が道の両側にずらっと入っていたけど、今は、みなさんも高齢となり、随分店舗の数が減ってきたことも話してくれました。そのお母さん自身も約50年以上この場所で朝市を続けていることを語ってくれました。亀崎地区に今なお残る朝市の光景は素晴らしいなと、また一つ亀崎の町のよさを感じてしまいました。また、違うお店のお母さんからは、この通りを通る小学生の男の子がいつも元気よくあいさつしてくれて、「学校に行く元気な子どもの様子を見ると、遠くに住んでいる小学生の孫を思い出す。」という話もしてくださいました。それから、昔は小学生が学校の授業として小銭を握りしめ、この朝市に買い物に来ていた時期もあったこと。近くの園児も朝市に来て、並べられている野菜を見て、名前をいったり、お店の人とあいさつを交わしたりしたこと。こうして外のお店で直接会話をするという機会をもつ大切さについて考えさせられました。そんな風にお店の人と話をしている時でも、地域に住む人たちがお店に買い物に来ており、自然とお店の人と会話が始まるそんな心温まる亀崎の朝市「二七市」の朝をこのおたよりで紹介しようと思い、載せることにしました。

心温まるエピソード①

・先日、2階図書館前のトイレを通りかかり、スリッパがそろってないな！と思い、そろえ始めたところ、ある一人の男の子がトイレで用を足す訳でもなく、私の横にずっと近寄り、一緒にそろえてくれた子がいました。そのさりげない行為に心がほっとしました。

心温まるエピソード②

・2/13(月)は、バレンタイン・イブの日？なのか、職員室の水屋にタッパに入ったハート型のチョコクッキーがそれとなく置いてあり「どうぞご自由に(^_^)」とメモがそえてありました。これまた、心がほっとする一場面でした。

